

# 兵庫県産蝶類分布資料 (2)

## —— 県下における迷蝶の記録 ——

広畑政己

兵庫県下で採集された蝶の記録を拾っていくと、報告されているだけで実に145種類を数える。この中で、118種類前後は土着していると推測できるが、残りの20数種は迷蝶と言われている蝶である。

迷蝶の中には近隣の中国、四国地方の一部で土着しているミカドアゲハ、イシガケチョウ、サツマジミ、ヤクシマルリジミなどの蝶もあれば、明らかに南方から迷入してきたと思われるリュウキュウムラサキ、ヤエヤマムラサキ、カバマダラなどの暖地性の蝶もある。また、本来は中部地方以北にしか生息しないとされているギンボシヒョウモン、キベリタテハ、クジャクチョウなどの寒冷地性のもも何種か報告されているが、その中で、県下で土着する種と酷似するアカセセリ、コヒョウモンモドキ、ヤマキチョウなど同定誤りと思われるものも少なくない。

福田(1981)の「ある地域内に、どこからか迷入してきた非土着のチョウ、および土着か非土着かわからないチョウ」が迷蝶とするならば、過去に採集例が極めて少ない種や、毎年越冬が確認できていないウラナミジミなども迷蝶の部類に入るかもしれないし、反面、本稿で取り上げたクロコノマチョウは土着種としての扱いをした方が妥当かもしれないが、取敢えず29種について、その採集記録をまとめてみた。

1964年以前の県下に於ける迷蝶の記録については、山本・吉阪(1965)が詳しく、その後も断片的ではあるが数多くの報告があるので、本稿を発表するに際しては、これらの記録と重複する部分も多く、今更の感は免れないが、その後新しい記録も入手しているので、従来の記録と併せて報告した次第である。

本稿を草するに当り、関連文献やそのコピーを御恵与いただいた高橋寿郎氏に厚く感謝申し上げる。また次の方々には採集記録を御提供いただいたり、何かと御教示を仰いだ。ここに記してお礼申し上げます。

相坂耕作、青山潤三、浅田卓、石井為久、稲田和久、岩村巖、川崎悟良、木村三郎、近藤伸一、黒田収、河野綾典、高田忠彦、竹内俊行、徳岡正己、難波通孝、法西定雄、山下順正、米村和繁、若林守男 (アイウエオ順、敬称略)

### 1. クロコノマチョウ *Melanitis phedima* CRAMER

県下に於て土着がはっきり確認されていない点では本種は迷蝶になるかもしれないが、採集記録が迷蝶にしては多いことや秋型の個体が5月上旬に採集されていることから推測すると、土着の可能性が濃厚な種である。

本種は九州、四国、本州に分布し、土着の東限は静岡県東部で、静岡県内はほぼ全域の低地に分布しており、愛知、滋賀の各県から紀伊半島一帯にも土着しているようである(藤岡, 1975)。

分布の東限に当る静岡県では、主として中西部において、1955年から1960年にかけて大発生したことが分布調査によって確認されている(高橋, 1981)。同報文によると、その後は個体数が減少したまま小康状態を保っていたが、1979年になってまた個体数が増え始め、1980年にふたたび大発生となったようである。

分布はさらに静岡県から北へ広がり、長野県南部の下伊那一帯でも1980年に多発生が観察されている(各務・井原, 1981, 蛭川, 1981)。

最近、南方から東へ北へと波状に分布を広げつつあるナガサキアゲハの分布の拡大様式とは多少の違いはあるが、暖かい地方から北進、東進している点では本種も変わりなく、興味深い存在である。

県下では1951年に有馬温泉で法西定雄氏によって採集されたのが最初の記録のようである。その後、報告されているものと筆者の把握したものだけで、表1の通り46頭にもなり、1970年ごろからは少ないながら、ほぼ毎年採集されるようになっていく。

表1. 年次別採集個体数 (1950年～1981年)

年次	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	'60
採集数		1		1		1	3	1	1	1	
年次	'61	'62	'63	'64	'65	'66	'67	'68	'69	'70	'71
採集数		1	1							1	4
年次	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	合計
採集数		3	2	1		4	1	7	11	1	46

採集記録が目立つようになったのは1977年ごろからで、確認できたものだけでも1977年には4頭、1979年には7頭、1980年には11頭の多くを数える。

また、五色町広石中、姫路市網干区新在家では同一場所かそれに近い所で、1979年と1980年にそれぞれ1頭づつ採集され、1980年5月4日には夢前町雪彦山で稲田和久氏によって秋型の♀が採集されている。これらの記録は前記の採集例とともに、県下において土着を示唆する記録として興味を引くものである。

暖地性の蝶である本種が土着するためには、冬季の気象が重要なポイントになることは言うまでもないが、静岡県に於ても暖冬が本種の大発生を支える有利な条件になっているようである(高橋, 1981)。

県下においては採集個体数も少なく、冬期気温と個体数との相関関係を説明することは難しいが、過去10年間の1月、2月の気温と、その年の採集個体数を図1. 表2にし、越冬しているとの想定のもとで、冬期気温との関連をながめてみた。1977年の冬は過去10年間で最も厳しい冬で、最低平均気温、最低極値、0℃以下の日数のどれをとっても最低を記録している。にもかかわらず、この年には4頭の個体が採集されている。逆に、前年の1976年と1972年は暖冬にもかかわらず1頭の個体も採集されていない。この結果から判断すると、冬期気温と本種の個体数との関連はないかのようにみえるが、1978年ごろまでは個体群の密度も低かった関係で、このような結果になっているのではないかと思われる。

採集個体数は、県下に於ても静岡県や長野県同様、1979年に急増しているの、1970年ごろから個体群の

図1. 1~2月の最低平均気温の推移とクロコノマチョウの採集個体数

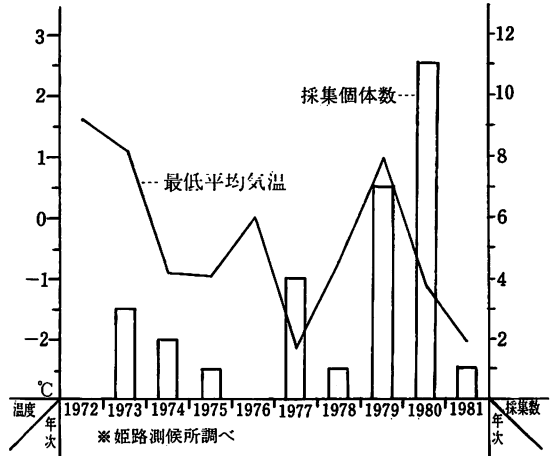


表3. クロコノマチョウの月別採集個体数表 (1981年現在)

月	5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
採集数	1			1			2	7	3	2	2	2	2	3	6	5	3	4	2	1	

密度が徐々に高まってきたところへ、1979年の暖冬という条件に恵まれて数を増やし、1981年の厳冬でまた数が減ったのかもしれない。いずれにせよ、毎年越冬しているとすれば、1977年のような厳冬でも耐えられるということである。

今後、個体群の密度が高くなっていくような様相なので、近い将来県下に於ても確実に土着するものと推測している。

〈採集及び目撃記録〉

姫路市網干区新在家	1♂	23-VIII-1980	岩村 巖
" " "	1♂	6-IX-1979	黒田 収 <sup>1)</sup>
" " 浜田	1♀	19-IX-1977	河野 綾典
" 飾磨区中島	1♂	13-VI-1973	井出 敏晴 <sup>2)</sup>
飾磨郡夢前町雪彦山	1♀	4-V-1980	稲田 和久 <sup>3)</sup>
" 家島町宮	1ex	31-X-1980	上田 尚志 <sup>4)</sup>
宍粟郡一宮町福知溪谷	1♂	24-VII-1973	井出 敏晴 <sup>2)</sup>
揖保郡御津町新舞子	1♂	30-VIII-1977	稲田 和久 <sup>3)</sup>
" 新宮町善定	1♂	9-VI-1980	黒田 龍一
" " "	1♀	14-VIII-1981	黒田 収

表2 年次別冬期気温とクロコノマチョウの採集個体数

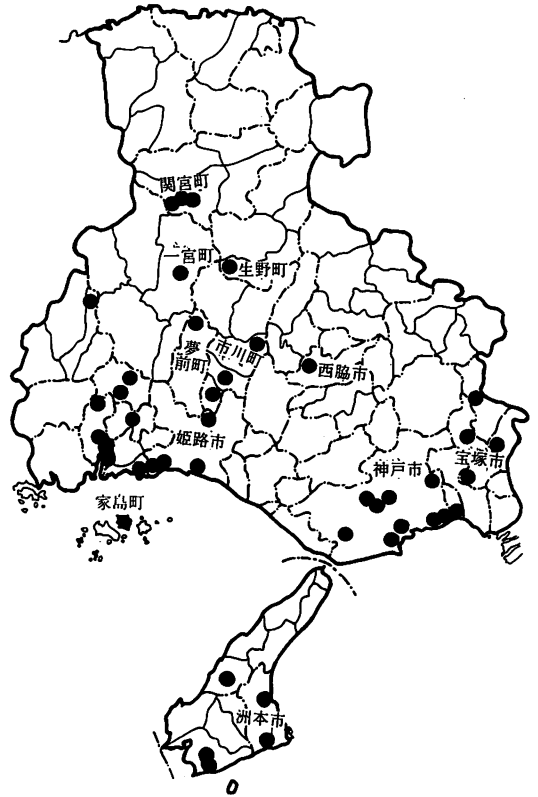
年次	1-2月の最低平均気温	最低極値	0℃以下の日数	採集個体数
1972	1.6	-3.4	2 1	0
1973	1.05	-4.5	2 7	3
1974	-0.9	-6.0	4 6	2
1975	-1.0	-5.3	4 5	1
1976	0.0	-5.3	3 7	0
1977	-2.2	-7.8	4 6	4
1978	-0.75	-7.1	3 8	1
1979	0.95	-4.1	2 4	7
1980	-1.2	-6.1	4 6	11
1981	-2.05	-7.4	4 9	1

佐用郡南光町船越山	1♂	2-IX-1973(羽化)	稲田 和久 <sup>3)</sup>
” ”	1ex	--VII-1975	-----
神崎郡福崎町福崎新	1♀	--秋-1956(羽化)	石井 為久
” 市川町上牛尾	1♂	5-X-1980	広畑 政己 <sup>5)</sup>
朝来郡生野町旗ノ谷	—	--X----	西村 公夫 <sup>6)</sup>
相生市三濃山	1♂	30-VII-1980	川崎 悟良 <sup>7)</sup>
” 矢野町下頃	1♂	19-VIII----	田辺 -----
” 相生	1♀	17-X-1980	川崎 悟良 <sup>7)</sup>
” 鰯浜	1♂	26-X-1971	浜田 守弘
” ”	1♀	6-XI-1971	浜中 義憲
西脇市出合	1♂	5-X-1980	竹内 俊行
” ”	1♀	12-X-1980	徳岡 正己
川辺郡猪名川町	4♂1♀	2-X-1979	山本 浩 <sup>8)</sup>
” ” 木間生	1ex	23-IX-1974	新家 勝 <sup>9)</sup>
川西市芋生	1ex	18-VIII-1979(目撃)	仲田 元亮 <sup>9)</sup>
宝塚市切畑滝ヶ平井	1♂	5-IX-1971	松尾 ----- <sup>10)</sup>
” 宝塚高校内	1♀	30-IX-1970	柳沢 俊二 <sup>11)</sup>
” 宝塚付近	—	5-VIII-1955	佐手旗一郎 <sup>12)</sup>
” 長寿ヶ丘	—	15-VII-1959	佐藤 啓一 <sup>12)</sup>
養父郡大屋町筏	1♀	30-VII-1956	中尾 淳三 <sup>13)</sup>
” ” ”	2♂	30-VII-1957	----- <sup>13)</sup>
” ” 若杉	1♂	30-VII-1956	中尾 照之 <sup>13)</sup>
” ” 中間	2♂1♀	29-IX-1958	----- <sup>13)</sup>
” ” ”	1♂	30-VII-1953	中尾 淳三 <sup>14)</sup>
神戸市垂水区太山寺	—	-----	----- <sup>15)</sup>
” 北区山田町	—	-----	----- <sup>15)</sup>
” ” 藍那	1♂	2-XI-1980	加藤 昌宏 <sup>15)</sup>
” ” ”	多数	--X-1977	川本 明 <sup>19)</sup>
” ” 下谷上	1♂	11-IX-1979	高橋 寿郎 <sup>16)</sup>
” ” ”	1ex	17-IX-1979(目撃)	高橋 寿郎 <sup>16)</sup>
” ” 有馬温泉	1♀	24-IX-1951	法西 定雄 <sup>17)</sup>
” ” 鈴蘭台	—	-----	----- <sup>15)</sup>
” 布引谷トーエンティクロス	1♀	4-XI-1963	三木 進 <sup>18)</sup>
” 兵庫区須佐野通	1♀	29-IX-1962	三木 進 <sup>18)</sup>
龍野市龍野町日山	1ex	--X-1979(目撃)	川崎 悟良 <sup>7)</sup>
三原郡南淡町大川	—	16-XI-1974	山崎 俊道 <sup>20)</sup>
” ” 新北	1♂	30-X-1977	浅田 卓 <sup>21)</sup>
津名郡五色町広石中	1♂	11-X-1979	浅田 卓 <sup>22)</sup>
” ” ”	1♂	2-VIII-1980	浅田 卓 <sup>23)</sup>
洲本市相川	1♂	10-VIII-1971	武田 義明 <sup>24)</sup>
” 物部	1♂	6-IX-1978	堀田 久 <sup>25)</sup>

この他の記録としては、山本 (1971) に、新宮町篠首、姫路市仁豊野、神戸市魚崎、本山、兵庫がある。また、山本・吉阪 (1960) には神戸市岡本、芦屋市打出、加古川市、神崎郡香寺町溝口があるが、その出典

や詳しいデータは不明である。

図2. クロコノマチヨウの採集地



2. ウスイロコノマチヨウ *Melanitis leda* LINNAEUS

本種の県下に於ける採集例は、前種と比較すると少なく、報告されている記録は10例があるにすぎない。これは当然のことながら、土着地が鹿児島県奄美大島以南で、本県からは遠く離れているため、飛来する頻度が少ないことと、前種より耐寒性に難があることが起因しているのではないと思われる。

県下で最初に発表された記録は、1937年10月で、「神戸市外本山村(現在の東灘区本山町)にて数頭発見し、中1頭を獲た」となっている(谷口, 1938)。また、その報告では、「同郡住吉村(現在の東灘区住吉町)及び神戸市内にて採集された標本を見た記憶もある」と記されているので、1937年以前にも採集されたことがあるようである。

採集時期は風などによって運ばれて来る可能性が高い7月下旬~8月に多いが、6月下旬の記録も1例ある。また、浜・当麻 (1973) には、8月上旬にススキより本種の3令幼虫が発見されているが、この幼虫は

これ以前に、何らかの要因で迷入した母蝶からもたらされたものようである。

採集記録の内、神戸市の六甲登山口、長田区、灘区の詳しいデータがないが、柴内・中畔(1950)によると、1頭は六甲山登山口近くの柴内宅に飛来したもので、1頭は虫友により長田区の某所にて採集されたものであると記されている。また、中口・吉阪(1954)の灘区の記録は、「灘区六甲にて柴内俊次君が採集、松浦役児君が所有」となっており、柴内・中畔(1950)の六甲山登山口の採集記録と同じものであると思われるので採集記録の中へは入れていない。

〈採集記録〉

西宮市夙川	—	—VIII-1955	伊勢田 漱二 <sup>12)</sup>
〃 御茶屋所町	—	31-VII-1957	有田 茂 <sup>12)</sup>
宝塚市武庫川原	—	—夏-1956	川合 勲 <sup>12)</sup>
神戸市六甲登山口	1ex	—	柴内 俊次 <sup>33)</sup>
〃 長田区	1ex	—	— <sup>33)</sup>
〃 本山	1ex	—X-1937	谷口 和義 <sup>47)</sup>
城崎郡日高町久斗	1ex	24-VII-1977	山田 剛士 <sup>62)</sup>
多紀郡城東町曾地奥	幼虫4頭	5-VIII-1973	浜・当麻 <sup>63)</sup>
上月町上秋里	1♂	20-VI-1971	五十嵐英二 <sup>64)</sup>
洲本市本町	1♂	1-VIII-1980	浅田 卓 <sup>23)</sup>

3. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas* BOISDUVAL

古くは1936年の神戸市一の谷の記録があるが(加地・1940)、その後、神戸市板宿、摩耶山袖谷などでも採集され、1975年までの39年間に10頭が採集されている。

1976年以降は徐々に記録も増え、1977年には4例、1980年には2例を数え、最近の5年間で8例もの採集記録がある。

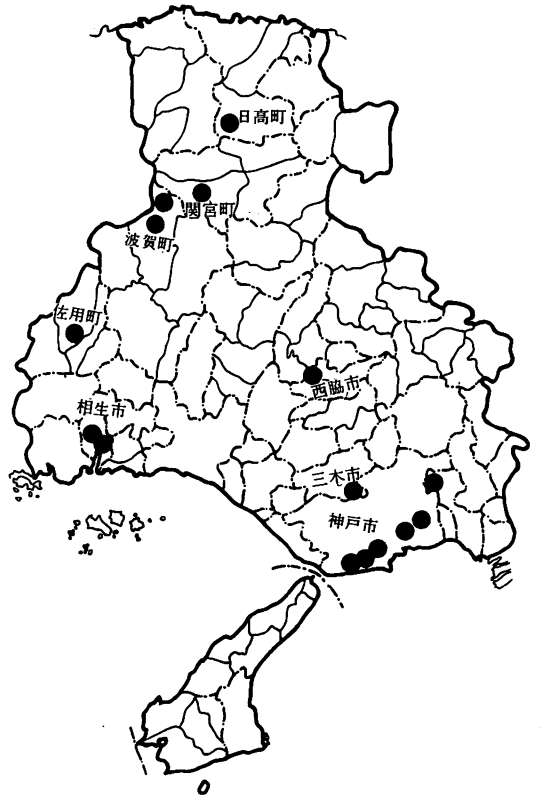
隣接する岡山県では、1978年の6月~10月にかけての調査で各ステージの確認がされ、かなりの個体数も採集されている(難波, 1978)。また、徳島県高越山麓や奥野井、香川県の南部山地、五剣山、象頭山などでは少なくないようである。66)

本県ではまだまだ採集例も少なく、土着の可否についての判断は難しいが、近年採集例が増えたことや、前述の通り隣接する地域では土着かそれに近い状況になっていること、また、6月上旬の記録もあることなどを見ていると、少ないながら本県でも越冬し、毎年発生を繰り返しているのかもしれない。今後県下にも土着するかどうかその経過が楽しみである。

〈採集及び目撃記録〉

西脇市出合	1♂	21-VIII-1977	竹内 俊行
〃 〃	1ex(目)	21-VIII-1977	徳岡 正己
相生市菅原町	1ex	7-VI-1977	川崎 悟良 <sup>27)</sup>
〃 大谷町	1♂	19-IX-1971	浜田 守弘 <sup>28)</sup>
〃	—	—IX-1973	大角 — <sup>28)</sup>
佐用郡佐用町坂用坂	1♂	中旬-VI-1976	白井 祐 <sup>29)</sup>
宍粟郡波賀町音水	1♂	8-VI-1969	畑中 熙 <sup>30)</sup>
〃 〃 戸倉	1ex(目)	20-VII-1980	黒田 収
城崎郡日高町阿瀬溪谷	1♂	11-VII-1978	三木 茂久 <sup>31)</sup>
養父郡大屋町中間	1♂	13-IX-1959	上垣 巧 <sup>14)</sup>
三木市戸田	1♀	—IX-1977	小倉 滋 <sup>32)</sup>
神戸市鷹取山	1ex	—-1949	中畔 史雄 <sup>33)</sup>
〃 〃 袖谷	1♂	29-VI-1951	中口公一郎 <sup>38)</sup>
〃 〃	—	—-1948	中口公一郎 <sup>37)</sup>
〃 須磨区板宿	1♂	—VIII-1949	加藤 昌宏 <sup>15)</sup>
〃 一の谷	2ex	—-1936	加地 早苗 <sup>34)</sup>
〃 六甲山頂	—	23-VII-1961	楠田 英夫 <sup>37)</sup>
西宮市山口町金仙寺	1♂	21-VI-1980	森崎 讓 <sup>36)</sup>

図3. イシガケチヨウの採集地



4. ミカドアゲハ *Graphium doson* C & R. F. ELDER

県下における採集記録としては2例が知られている。2例とも淡路島での記録で、1例は津名町からの記録で、登日邦明氏(当時小学校2年生)によって採集されている。この個体の採集月日は明らかではないが、春型の斑紋をしていることから、6月半ば以前に採集されたものであろうとされている。また、後翅裏面基部及び亜外縁沿の紋は赤色のようで、この個体は、赤斑型が分布する紀伊か赤斑型と黄斑型混在している四国からの迷蝶と考えられる。

初記録から6年後の1964年には志築神社で2頭が(山本, 1969にはその後さらに2頭となっている)採集されているが、その個体についての詳細は不明である。

県下で本種が土着するためには、冬期気象と食樹等の諸条件が満たされなければならないが、その1つである冬期気温との関連については、蛹の野外での越冬実験によって、県下でも越冬できるだけの耐寒性がそなわっていることが判っている(広畑, 1980)。また、食樹のオガタマノキは県下で多くは見られないが、近隣の土着地である徳島県で自然状態での食樹になっているタイサンボク<sup>101)</sup>は、庭木として県下に多く植えられているので、近隣の地域の個体群の密度が高くなり、本県に飛来する頻度が高くなれば、土着も充分考えられる。

## 〈採集記録〉

津名郡津名町佐野 1♂ ————1958 登日邦明<sup>60)</sup>  
 // 志築明神 2exs ————1964 奥野修久<sup>60)</sup>

5. ヤクシマルリシジミ *Acyto lepis puspa* HORSFIELD

本種は紀伊半島南岸沿いや四国室戸岬周辺にまで分布しているが、県下では1972年に南淡町灘で発見されるまでは採集記録がない。

この記録は、愛媛大学農学部昆虫学研究室が、国立公園協会から依頼を受け、本四架橋ルートの島々の昆虫相の調査を実施した時に採集したものである(堀田, 1974)。

## 〈採集記録〉

三原郡南淡町灘 1♀ — X —1972 —————<sup>42)</sup>

6. サツマシジミ *Celastrina albocaerulea* MOORE

中国地方の山口県、広島県には産地も多いようで、四国地方でも北東部を除いて分布しているようであるが本県ではこれまでに3例の記録しかない。

西宮市甲山の記録は山本(1968)から引用しているが、この記録の原記載は、「サツマシジミ採集始末記」として、大阪学芸大学付属高校池田校舎生物研究部誌のかわむし4号に田中忠治郎氏が発表されたものである。

## 〈採集記録〉

西宮市甲山 1♂ 16-VII-1961 田中忠治郎<sup>43)</sup>  
 // 岡田山 1♀ 30-VIII-1969 勝屋 潤<sup>44)</sup>  
 神戸市高取山 1♀ 5-VII-1978 遠山 豊<sup>45)</sup>

7. アオタテハモドキ *Precis orithya* LINNAEUS

谷口(1938)によれば、1937年に塚本信雄氏(当時甲南高校尋常科生徒)によって明石郡垂水町(現在の神戸市垂水区)で採集されたことが報告されている。

## 〈採集記録〉

神戸市垂水区 1ex — VIII —1937 塚本信雄<sup>47)</sup>

8. メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus* LINNAEUS

1957年に明石市で目撃されたのが県下では最初の記録のようである。これまでに報告された記録の中で、西宮市武田尾の記録は、後に、兵庫生物Vol.5 No.2でリュウキュウムラサキと訂正されているので、現在までに判明しているのは4例である。この他の記録として(山本, 1971)に赤穂市の名前があるが、詳しいことはわからない。また、相坂(1980)の網干区浜田(木材港)の記録はカバマダラの誤りだったので訂正しておく。

## 〈採集記録〉

明石市北王子町 1♂(目) 16-VIII-1957 山口 福男<sup>48)</sup>  
 相生市川原町 1♀ 25-VIII-1966 石井 満補<sup>49)</sup>  
 神戸市須磨区旗振山頂 1♀ 23-VII-1964 橋本知代<sup>49)</sup>  
 // 垂水区ジェームス山 1♂ 27-IX-1959 青山 潤三

## 9. リュウキュウムラサキ

*Hypolimnas bolina* LINNAEUS

本種は東洋熱帯に広く分布し、♀には地理的変異が著しく、台湾型、大陸型、フィリピン型、赤斑型の4型が知られている。

これまでに県下で採集された♀は2頭で、これらの個体はいずれも赤斑型(パラオ型)とよばれているものである。赤斑型はパラオ諸島、マリアナ諸島、ニューギニア、ジャワ、マレー半島などに分布しているもので、これらの地域に由来のある個体と思われる。

これまでに報告された採集記録の内、相生市川原町の1971年の記録は、てんとうむしNo.5でヤエヤマムラサキとして記載されたが、同定に際し、不手際があり、てんとうむしNo.7では本種の採集記録として訂正しているが、原記載通りヤエヤマムラサキと判明している。

この他の記録として、山本(1971)に赤穂市と三原の地名があるが、この記録に関しては不明である。

## 〈採集記録〉

- 三原郡南淡町灘黒岩 1♂ 30—VIII—1968 藤平 明<sup>43)</sup>  
 洲本市宇山 1♂ 20—VIII—1959 梅本晃義<sup>39)</sup>  
 西宮市内 1♀ 12—X—1957 田中 蕃<sup>50)</sup>  
 姫路市豊富町神谷 1♀ 24—VIII—1978 山本邦明<sup>51)</sup>  
 相生市川原町 1♂ 3—XI—1967 松尾和雄<sup>28)</sup>  
 宝塚市武田尾 1♂ 12—IV—1963 岡村八郎<sup>43)</sup>

10. ウスキシロチョウ *Catopsilia pomona* FABRICIUS

本種は以前ギンモンウスキチョウとムモンウスキチョウの2種に分類されていたが、同種であることがわかり、近年ではウスキシロチョウのギンモン型、ムモン型となっている。

県下で採集された個体で明石市のもはギンモン型となっており、その他の記録も、山本(1965)によればギンモンウスキチョウとなっているので、3例ともギンモン型と思われる。

## 〈採集記録〉

- 西宮市菊谷町 1♀ 18—VIII—1958 仲谷 勝<sup>37)</sup>  
 " " 1♂ 3—VII—1960 仲谷 勝<sup>40)</sup>  
 明石市小寺 1♀ 12—VIII—1964 小川 進<sup>40)</sup>

11. メスジロキチョウ *Lxias pyrene* LINNAEUS

1929年の6月下旬に採集されているが、この記録は兵庫県はもとより国内でも最初の記録のようである。その後本種の採集記録は県外において少ないながらも、県下ではこれ以外に聞かない。

## 〈採集記録〉

- 西宮市 1♂ 下旬—VI—1929 笠原辰男<sup>61)</sup>

## 12. ウラナミシロチョウ

*Catopsilia pyranthe* LINNAEUS

甲山南麓の夙川上流で大西俊和氏(当時甲陽中学校の生徒)によって採集されたことが東(1960)で報じられている。県下ではこれが唯一の記録である。

## 〈採集記録〉

- 西宮市甲山南麓 ——— 7—VIII—1956 大西俊和<sup>37)</sup>

## 13. タイワンモンシロチョウ

*Pieris canidia* SPARRMAN

長崎県対馬に分布することは周知の通りであるが、その他の地域では八重山諸島でときどき採集される程度で、迷蝶としての記録も、島根県の大田市と東京都があるにすぎない<sup>69)</sup>。

県下で採集された場所は、神戸港北東約7kmの地点のようで、足立(1980)に写真が掲載されているが、新鮮な個体である。

## 〈採集記録〉

- 芦屋市岡本 1♀ 22—VIII—1975 足立尚計<sup>41)</sup>

14. ウスコモンマダラ *Tirumala limniace* CRAMER

近畿、四国、九州と南西諸島に迷蝶として記録がある<sup>69)</sup>。県下での記録は次の1例がある。この個体は、若井博史氏が甲山町五ヶ池付近に蝶の分布調査に行かれた際、松林の中を飛んでいるものを採集されたことが朝日新聞の1978年7月29日の朝刊に記されている。

この記録は近く大阪昆虫同好会誌に発表されるよう

であるが、この度は未発表記録として借用させていただいた。

〈採集記録〉

西宮市甲山町五ヶ池 1♀ 5—VII—1978 若井博史<sup>58)</sup>

15. スジグロカバマダラ *Salatura genutia* CRAMER

アジア熱帯に広く分布している。わが国では八重山諸島に分布し、迷蝶として各地でかなりの採集記録が報告されている。県下では古く1931年の記録があるだけで、その後本種の記録はない。

〈採集記録〉

西宮市森具字木津山 1ex 26—VIII—1931 宮本裕三<sup>57)</sup>

16. カバマダラ *Anosia chrysippus* LINNAEUS

これまでに県下において7例が知られており、迷蝶として飛来する頻度の高い種である。8月から9月にかけて多くが採集されており、いずれの記録も1頭であったが、1978年に姫路市網干区の木材港にて一挙に16頭もの個体が採集されている。このようにまとまって南方から迷入してくるということは考え難く、7月～8月ごろに何かの要因で運ばれてきた母蝶が産卵し、一時的に世代をくりかえしたのではないかと思われる。

本種の食草はガガイモ科のトウワタで、ガガイモも食べるようなので、<sup>69)</sup>これを代用食として発生したことも充分考えられる。

発表されている採集記録の中で、高砂市阿弥陀町生石の記録<sup>102)</sup>は、山本(1968)で加古川市と訂正されている。

〈採集記録〉

姫路市網干区木材港 16exs 中旬-IX-1978 代田幸治  
 宝塚市高司 1♂ 12—VIII—1970 藤本敬明<sup>53)</sup>  
 加古川市西神吉町 1♀ 8—VIII—1965 吉住正和<sup>54)</sup>  
 神戸市垂水区垂水町 1♂ 1—IX—1978 加藤昌宏<sup>15)</sup>  
 高砂市米田町古新 1ex 15—IX—1970 森田真澄<sup>55)</sup>  
 神戸市東灘区本山町野寄 1♀ 14—VII—1965 成瀬秀雄<sup>56)</sup>  
 水ノ山頂上付近 1♂ 2—VIII—1957 中尾淳三<sup>13)</sup>

17. ヤエヤマムラサキ *Hypolimnas antilope* CRAMER

迷蝶としての記録が多いリュウキュウムラサキと比較すると、本種の採集記録は極めて少ない。

県下では1971年の記録が唯一のものである。この記録はリュウキュウムラサキの項でもふれた通り、ヤエヤマムラサキと発表したものを<sup>28)</sup>、てんとうむしNo.7でリュウキュウムラサキと訂正している<sup>52)</sup>が、結果的にはヤエヤマムラサキの♂であることが判明した。

〈採集記録〉

相生市川原町 1♂ 12—VIII—1971 石井満補<sup>28)</sup>

表4. 年次別採集個体数表

年次	種名	ウス	タイ	メ	ウ	メ	リ	ア	カ	ス	ウ	ミ	サ	ヤ
		スキ	ン	シ	ラ	ス	ユ	オ	バ	ジ	ス	カ	マ	ク
		シ	モ	ロ	ナ	ア	ウ	タ	マ	グ	コ	カ	マ	シ
		ロ	ン	キ	ミ	カ	キ	テ	ダ	ロ	モ	ド	シ	マ
		チ	ロ	ョウ	シ	ム	ム	ハ	ゲ	カ	ン	ア	ジ	リ
		ョウ	チ	ウ	ョウ	ラ	ラ	モ	ハ	バ	マ	ゲ	ミ	シ
								ド	マ	マ	ダ	ハ		ジ
								キ	ダ	ダ	ラ			ミ
1952以前				1	1				1	1				
1953														
1954														
1955					1									
1956				1	1									
1957					1	1	1		1					
1958	1												1	
1959						1	1							
1960	1													
1961														1
1962														
1963							1							
1964	1					1						1		
1965										2				
1966						1								
1967							1							
1968							1							
1969														1
1970										2				
1971					1			1						
1972														1
1973					1									
1974														
1975		1												
1976														
1977					1									
1978							1		17		1		1	
1979														
1980					1									
1981														
合計		3	1	1	1	8	4	6	1	1	22	1	1	2
														3
														1

18. クロアゲハ(無尾型) *Papilio protenor* CRAMER

本種の無尾型は、八重山諸島などに知られているが、これらの地域でも、有尾型と無尾型の両方の遺伝形質が複雑にまざりあっているようである<sup>69)</sup>。しかし、本州から南下するにしたがって短くなる傾向があり、八重山諸島では全く尾状突起のない個体が採集されている<sup>69)</sup>。本州、九州でも無尾型は希に採集されるようで、県下に於てもこれまでに7例が報告されている。これらの個体は、無尾型の現れる頻度の高い八重山諸島から迷入してきたものか、県下でも遺伝的に極めて希に現れるものなのかは定かではないが、これまでの記録をとりまとめた。

## 〈採集記録〉

姫路市砥堀	1♂	2—VIII—1980	小坂潤— <sup>51)</sup>
神戸市北区	1♂	下旬—VIII—1979	毛利明子 <sup>51)</sup>
"  六甲山麓	1ex	—VIII—1933	加地早苗 <sup>34)</sup>
"  本山	1♂	夏型 —	谷口和義 <sup>47)</sup>
西宮市門戸西町	1♂	4—V—1969	斉藤泰彦 <sup>81)</sup>
"  仁川	1♂	夏型 1963	————— <sup>81)</sup>
三原郡南淡町黒岩	1♂	15—V—1967	藤平 明 <sup>43)</sup>

19. アカセセリ *Hesperia florinda* BUTLER

加地早苗(1940)に「六甲連山の山地に産するも稀ならず」とあるが、本種は滋賀県以西には記録がないことと「稀ならず」と記されていることから判断すると、六甲山には多いヒメキマダラセセリ等との同定誤りではないかと考えられる。

20. チャマダラセセリ *Pyrgus maculatus* BREMER & GREY

本種は北海道東南部から東北、関東、中部地方を経て四国にまで分布しているが、近畿地方には生息していない。

県下における記録は、加地早苗(1940)に「非常に稀で、1935年7月下旬東六甲山にて採集せしのみ」となっている。

加地(1940)には、前種のアカセセリをはじめ、本種やオオミスジなども六甲連山の記録として報告されている。

21. ヤマキチヨウ *Gonepteryx rhamni* LINNAEUS

山本・吉阪(1965)によれば、井口(1907)の佐用郡産蝶類目録の中で、*Gonepteryx rhamni* LINNAEUSの名を上げているが、佐用郡には同属のスジボソヤマキチヨウが産するので、本種との同定誤りではないかと思われる。

22. ヒメシジミ *Plebejus argus* LINNAEUS

加地(1940)に“*Lycaena argus insularis* LEECH シジミテフ”として六甲山麓(草原)にて福島氏に依り採集されたとの報告がある。しかし、本種の発生時期は早くて6月中旬ごろからなので、この六甲山の記録の5月13日は少なからず疑問が残る。

その後、1955年に養父郡西谷村筏(現在の大屋町筏)で1頭(♀と推察する)が採集されたことが山本・吉阪(1965)に記されている。この標本は、採集者の中尾淳三氏から山本広一氏に贈られるはずであったが、展翅をしていたため郵送の際の破損をおそれ、中尾氏のもとで保管をしていたところ虫害にあい、1962年に山本氏が訪れた際にはすでに標本は破棄されていたことである。種の同定に当っては、横山光夫(1954)の原色日本蝶類図鑑(保育社)を参照にされたようで、裏面が第50図の北海道産のヒメシジミに最も近似していたようである(山本・吉阪, 1965)。

この他には、1963年6月27日に、武田義明氏により、南淡町大日ダム周辺で1♀が得られたことが登日(1974)にある。

ヒメシジミは、北海道から九州にかけて生息地が知られているが、近畿地方では記録はあるものの確実な産地はない。

近隣の中国地方では、本種の確実な生息地が知られているので、中国山地の東端に当る本県でも生息地がないとはいえないが、近年同好者も増え、以前と比較にならない程調査もよく行われているにもかかわらず今のところ、新しい採集記録は聞かない。

## 〈採集記録〉

神戸市六甲山麓	—	13—V—1935	福島—— <sup>34)</sup>
養父郡大屋町筏	1ex	—————	1955 中尾淳三 <sup>102)</sup>
三原郡南淡町大日ダム	1♀	27—VI—1963	武田義明 <sup>39)</sup>



23. ミヤマカラスシジミ *Stymonidia mera* JANSON

カラスシジミ属は国内で4種の生息が知られているが、県下では本種を含め3種の採集記録がある。

いずれの種もその記録は少なく、ベニカラスシジミが1例(他に川副・若林, 1967, では兵庫県北西部に分布するとの記載あり)、とカラスシジミが3例、そして本種が1例を数えるだけである。

谷口(1938)によると、「*Thecla mera* JANSON ミヤマカラスシジミ」の種名を上げ「鳥原附近で採集されている」と記されているが、詳しいデータは報告されていない。それ以降は県下から本種の採集記録は聞かない。

24. ルーミスシジミ *Panchala ganesa* MOORE

1948年8月10日に姫路市書写山で発見したことが今本(1950)に報じられているが、その後同地からは発見されていない。タイトルは、「ルーミスシジミの多産地」となっており、書写山にも多く見られるムラサキシジミの同定まちがいと思われる。

25. キベリタテハ *Nymphalis antiopa* LINNAEUS

高橋(1941)には、富田竹二郎氏が再度山にて記録されたようで、再度山、布引付近にいるらしいと記されている。この他には六甲山で富田林の田中保氏が採集されたことが昆虫世界46巻543号に報告されている。1956年7月26日には水上郡市島町上竹田の標高200m付近でも採集されており(藤田, 1957)、この標本は新鮮な個体で山本広一氏が確認しておられる。

その後、洲本市の三熊山で藤平明氏によって目撃されていることが登日(1974)に報告されているが、原記載は藤平(1960)にあるようで、文献を持ち合せていないので詳しくはわからない。

26. コヒョウモンモドキ *Mellicta athalia* ROTTEMBURG

1910年に井口宗平氏が佐用郡下で発見したことを報告されているが、その後、1956年6月22日に井口氏の住所である上月町久崎から田中蕃氏によって近似種のウスイロヒョウモンモドキが採集されているので<sup>102)</sup>、おそらく本種の同定誤りと思われる。

27. ギンボシヒョウモン *Speyeria aglaja* LINNAEUS

神戸市の須磨付近(北村達郎, 1935)、同市岡本(実川佐太郎, 1938)、六甲山麓(加地早苗, 1940)、氷ノ山(遠藤勉, 1960)などが山本(1965)で報告されているが、いずれの文献も筆者の手許にないので、詳しい記録はわからない。

最近の記録としては、六甲山上で1975年7月20日に得た標本の中に2♂が含まれていたようである(加藤・武衛, 1981)。

28. オオミスジ *Neptis alwina* BREMER & GREY

1937年6月に一頭を六甲山にて発見したと報告されている。この報文の谷口(1938)によれば、「六甲山に極めて稀に産す」と記されている。また、加地(1940)にも六甲山の「山地に産すれど非常に稀なり」となっており、吉阪和親(1936)にも灘地方(神戸市)にも産することが報告されている<sup>102)</sup>。六甲山には近似種のミスジチョウが産することはわかっているが、その後、オオミスジの記録はない。

29. クジャクチョウ *Inachis io* LINNAEUS

林久男氏が北野中学に在学の頃、同校の人で神戸市岡本付近で本種を2頭採集したという記録がある(吉阪, 1953)。この記録が唯一のものである。

## おわりに

県下に於ける迷蝶について述べてきたが、筆者の学識不足と資料不足のため、迷蝶にまつわる諸問題にはふれず、従来の採集記録を集め羅列したに留まった。迷蝶の記録で問題になることは、古くは、同定に必要な図鑑類も少なかったと思われるので、同定まちがいと考えられること、近年は、採集の行動範囲も増え、採集したものの中に他の産地の未整理のものが混入するおそれのあること、また、最近問題になっている放蝶という行いがあることなど、人為的に持ち込まれてくることが多く、真の迷蝶とは言えない種が報告されていることがあるということである。この度報告した記録以外にも採集記録があると思われるので御教示いただければ幸甚である。次の参考文献の※印については、筆者が目を通してないが、山本(1965)と山本・吉阪(1965)の引用文献をそのまま転記させていただいた。

## 〈参考文献〉

- (1)相坂耕作(1980)姫路市の昆虫 てんとうむし(6):13  
 (2)井手敏晴(1976)兵庫県に於けるクロコノマチョウの採集記録MDKNEWS 26(7):20  
 (3)稲田和久(1980)西播地区でのクロコノマチョウの採集例 てんとうむし(6):36  
 (4)上田尚志(1981)家島群島の昆虫(2) きべりはむし 9(1):9  
 (5)広畑政己(1980)兵庫県に於ける蝶5種の新産地 てんとうむし(6):30  
 (6)西村公夫(1967)播州高原の蝶類について 兵庫生物 5(3・4):229  
 (7)川崎悟良(1982)クロコノマチョウを相生市で採集 ひろおび(6):37  
 (8)山本 治(1980)兵庫県川辺郡でクロコノマチョウを採集 月刊むし(107):39  
 (9)仲田元亮(1980)能勢の昆虫その後(3) きべりはむし 8(1):15-16  
 (10)石飛敦郎(1971)宝塚市でクロコノマチョウを採集 昆虫と自然(6)(11):28  
 (11)柳沢俊二(1971)クロコノマチョウを宝塚にて採集 MDKNEWS 23(2):23  
 (12)東 正雄(1960)六甲山系の迷蝶 兵庫の自然のじぎく文庫 神戸  
 (13)中尾淳三(1959)氷の山附近の蝶相 NATURA(16):17-19  
 (14)山本広一・吉阪道雄(1960) 兵庫県産蝶類目録(3) 兵庫生物 4(1):37-44  
 (15)加藤昌宏・武衛晴雄(1981) 神戸の蝶 神戸市立教育研究所 兵庫)  
 (16)高橋寿郎(1980)ミヤマカラスアゲハ・クロコノマチョウ神戸市北区不谷上にて採集 きべりはむし 8(1):18-19  
 (17)法西定雄(1952)コノマチョウ(クロコノマチョウ)の1産地 新昆虫 5(3):44  
 (18)三木 進(1979)六甲山系(西部)の蝶 きべりはむし 7(1):6  
 (19)川本 明(1979)藍那地区自然環境調査Ⅶ蝶類 阪神高速道路公団 兵庫  
 (20)登日邦明(1975)南淡町大川にクロコノマチョウ産す Parnassius (14):3  
 (21)浅田 卓(1978)南淡町大日ダムでクロコノマチョウ採集 Parnassius (18):17  
 (22)浅田 卓(1980)津名郡にてクロコノマチョウ採集 Parnassius (22):8  
 (23)浅田 卓(1981)コノマチョウ属2種の採集記録につ  
 いて Parnassius (23):1  
 (24)登日邦明(1971)淡路島でクロコノマチョウ採集 MDKNEWS 23(2):23-24  
 (25)堀田 久(1978)洲本市内でクロコノマチョウを採集 昆虫と自然13(13):15  
 (26)山本広一(1971)兵庫県の蝶相 月刊むし (3):10  
 (27)川崎悟良(1979)相生市の蝶 ひろおび (4):24-25  
 (28)米村和繁(1979)相生市の迷蝶 てんとうむし(5):14  
 (29)白井祐一(1977)イシガケチョウを佐用町で採集 MDKNEWS 27(7):11  
 (30)畑中 照(1970)兵庫県でイシガケチョウを採集 昆虫と自然 5(5):35  
 (31)三木茂久(1978)阿瀬渓谷でイシガケチョウ Nature study 24(1):11  
 (32)小倉 滋・高橋久夫(1978)三木市内の蝶について きべりはむし 6(1・2):12  
 (33)柴内俊次・中畔史雄(1950)神戸虫だより 札幌昆虫同好会々報 (1):5  
 (34)加地早苗(1940)最近六甲連山の蝶類目録 昆虫界 8(77):452-452  
 (35)吉阪道雄(1955)神戸市におけるイシガケチョウの記録 新昆虫 8(7):52  
 (36)森崎 譲(1980)西宮でイシガケチョウを採集 Crude (20):17  
 (37)東 正雄(1960)兵庫の自然 P.69六月社 大阪  
 (38)中口公一郎・吉阪道雄(1954)六甲山蝶類目録(予報) MDKNEWS 別冊  
 (39)登日邦明(1974)淡路島の蝶相(Ⅱ) 佳香蝶26(9)25-32  
 (40)山本広一(1965)1964年夏の理科作品展に合った2~3の蝶と、その分布について 兵庫生物 5(1):47-49  
 (41)足立尚計(1980)兵庫県でタイワンモンシロチョウを採る 蝶と蛾30(3・4):171  
 (42)堀田 久(1974)淡路島産の蝶類追加(1)Parnassius (12):4  
 (43)山本広一(1968)兵庫県に注目すべき数種の蝶 MDKNEWS 20(3):17  
 (44)勝屋 潤(1969)西宮市岡田山でサツマシジミ MDKNEWS 21(2):26  
 (45)遠山 豊(1980)神戸市高取山でサツマシジミ1♀を採集 Nature study 26(6):6  
 ※(46)田中忠治郎(1962)サツマシジミ採集始末記 かわむし (4):18  
 (47)谷口和義(1938)神戸市産蝶類雑記(1)昆虫界 6(5):762  
 (48)山口福男(1957)明石にメスアカムラサキ見る 新昆虫 10(12):35

- (49)唐士洋一(1966)相生市内でメスカムラサキを採集す  
昆虫と自然 1(8):13
- (50)田中 蕃(1957)西宮で採れたリュウキュウムラサキ  
MDKNEWS 10(3・4):2
- (51)木村三郎(1980)姫路市児童生徒科学作品展に拾った蝶  
について てんとうむし (6):23-24
- (52)米村和繁(1981)相生市の迷蝶一部訂正について  
てんとうむし (7):37
- (53)平野雅親(1977)兵庫県宝塚市でカバマダラを採集  
昆虫と自然 12(1):10
- (54)山本広一(1968)兵庫県加古川市で捕まったカバマダラ  
昆虫と自然 3(3):6
- (55)森田真澄(1970)迷蝶カバマダラを高砂市で採集  
昆虫と自然 5(10):32
- (56)成瀬秀雄(1967)神戸市でカバマダラを採集 蝶と蛾  
17(1・2):27
- (57)加藤正世(1938)西宮市でとれたスジグロカバマダラ  
昆虫界 6(48):219
- (58)朝日新聞社(1978)迷チョウウスコモンダラ六甲山系  
に舞う 7月29日朝刊 20P.
- (59)登日邦明(1974)淡路島の蝶相(1) 佳香蝶 26(98):12
- (60)山本広一(1969)兵庫県のミカドアゲハについて  
兵庫生物 6(1):35-36
- (61)小林賢三(1929)メスジロキチョウ兵庫県にて採集さる  
Zephyrus (1):180
- (62)山田剛士(1980)日高町でウスイロコノマチョウを採集  
IRATSUME (4):69
- (63)浜祥明・当麻信彦(1973)能勢地方調査記録 crude  
(9):1
- (64)五十嵐英二(1981)ウスイロコノマ採集の思い出  
きべりはむし 9(1):30
- (65)高橋寿郎(1980)六甲山の昆虫たち 神戸新聞出版セン  
ター 神戸
- (66)日本鱗翅学会四国支部(1979)四国の蝶 高知
- (67)高橋真弓(1981)1980年静岡県中西部におけるクロコノ  
マチョウの大発生について  
駿河の昆虫 (112):3287-3292
- (68)各務寿・井原道雄(1981)長野県産クロコノマチョウの  
生態 NEW ENTOMOLOGIST  
30(1):1-5
- (69)川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑 保育社  
大阪
- (70)東 正雄(1971)京阪神の動物(増補版)六月社  
大阪
- (80)藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑 講談社 東京
- (81)堀田 久(1971)西宮市で採集されたクロアゲハの無尾  
型 MDKNEWS 23(2):26-27
- ※(82)遠藤 勉(1960)氷ノ山採集記 捕虫綱 (6):4-5
- (83)藤田悦久(1957)キベリタテハを関西で採集す  
新昆虫 10(1):47
- ※(84)井口宗平(1907)兵庫県佐用郡産蝶類目録, 昆虫世界  
11(9):418-420
- ※(85)佐川実太郎(1938)岡本(六甲山麓)の蝶 大阪府立北  
野中学校博物同好会々報(1):1-5
- ※(86)北村達明(1935)須磨付近の蝶類 昆虫界 3(17):323-  
325, 3(21):531
- (87)高橋寿郎(1941)神戸産数種の蝶に就いて 昆虫世界  
45(521):28-29
- (88)無名(田中保?)(1942)キベリタテハ六甲に産す  
昆虫世界 46(543):29
- (89)吉阪道雄(1954)京阪神蝶類目録 MDKNEWS 別冊
- ※(90)吉阪和親(1936)灘中学校付近の蝶類(灘中博物研究  
部)(5):27-30;(6)26-27
- (91)高橋寿郎(1940)神戸烏原貯水地附近産蝶類目録  
昆虫界 8(75):365-367
- (92)蛭川憲男(1981)長野県下伊那郡で多発したクロコノマ  
チョウ NEW ENTOMOLOGIST  
30(1):6-10
- (93)難波通孝(1978)岡山県のイシガケチョウについて  
すずむし (115):1-12
- (94)浅田 卓(1981)五色町広石地区のクロコノマチョウ  
Parnassius (24):13-17
- (95)吉阪道雄(1953)六甲山のクジャクチョウ  
MDKNEWS (28):45
- (96)登日邦明(1974)淡路島の蝶相(1) 佳香蝶 26(98):9-15
- ※(97)今本哲男(1950)ルーミスジミの多産地  
Amateur Entomology 1(1):9
- ※(98)藤平 明(1960)南淡町産主要鱗翅類目録(北阿万小学  
科学クラブ刊):9-10
- (99)広畑政己(1980)兵庫県南淡町に於けるウラナミシジミ  
の越冬と温度について  
Parnassius (22):1-4
- (100) 広畑正己(1980)淡路島の蝶類調査報告  
Parnassius (23):5-8
- (101) 天羽龍太郎(1977)徳島県のミカドアゲハ  
昆虫と自然 12(3):18-20
- (102) 山本広一(1966)兵庫の自然 P.33 六月社
- (103) 山本広一・吉阪道雄(1965)兵庫県産蝶類目録(4)  
兵庫生物 5(1):52-55; 11

(S28:Masami Hirohata 姫路市)